

學小
唱
歌
集

第二編

葛田

60

65

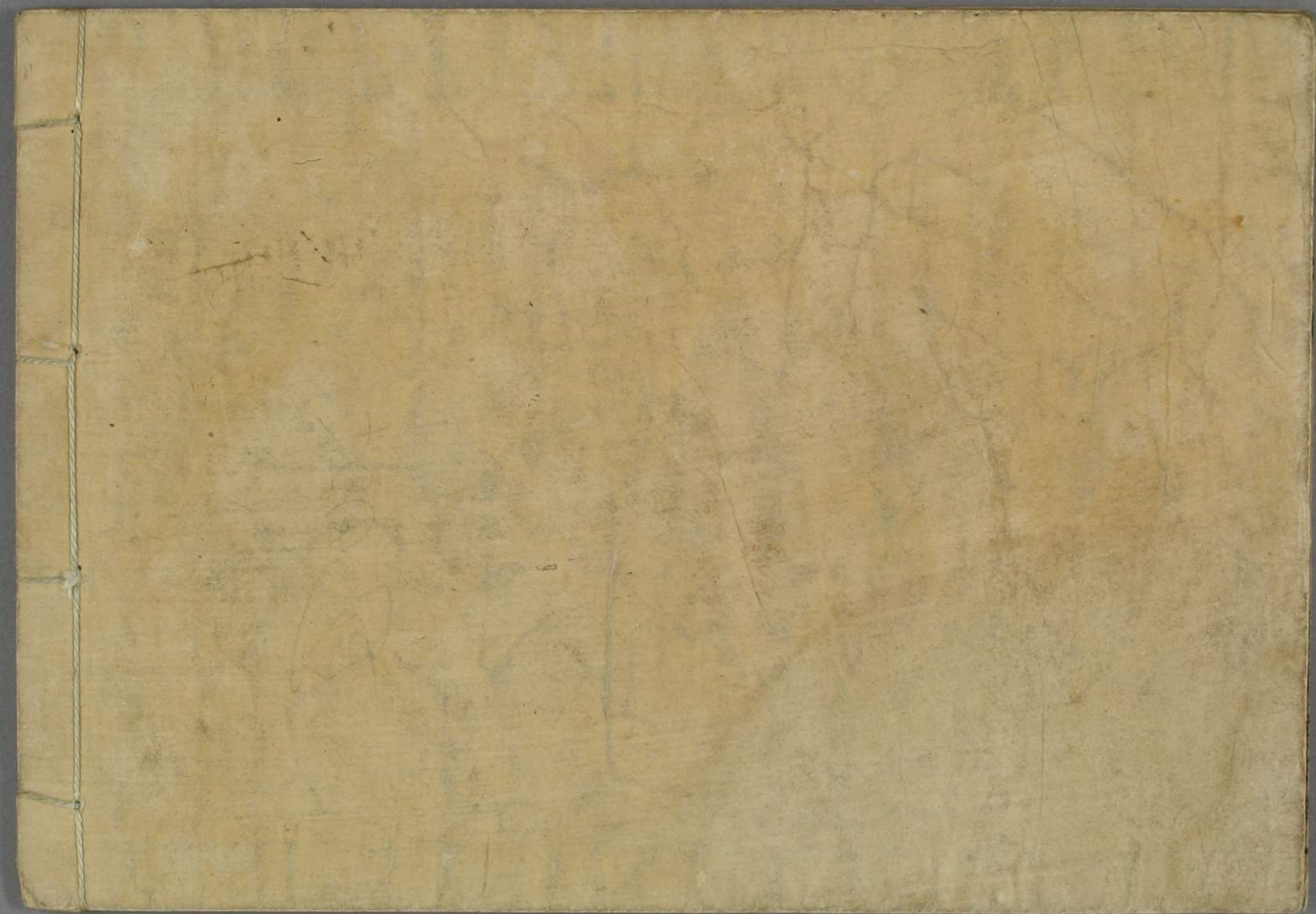
70

75

80

85





文部省音楽取調掛
編纂

唱歌集

第二編

明治十六年六月刊行



唱歌集第二編

目次

鳥の聲

霞う雲り

年たつ今朝

かすめらそ

燕

鏡なす

岩りら水

岸の櫻

表名拍

$\frac{4}{4}$ タ テ ト ツ	$\frac{4}{4}$ タラナテレ子トロノツルヌ
$\frac{4}{4}$ タエ トウ	$\frac{4}{4}$ タエ オ ツウヌ
$\frac{4}{4}$ タエオウ	$\frac{4}{4}$ タ テオ ツウヌ
$\frac{4}{4}$ タラテレトロツル	$\frac{4}{4}$ タエ トウ ル
$\frac{4}{4}$ タ テレ ト ツル	$\frac{4}{4}$ タアナテエ子トオノツウヌ
$\frac{4}{4}$ タダラナテレ子トドロノツルヌ	$\frac{3}{4}$ タ テ ト タエ オ
$\frac{4}{4}$ タ サ サ テ セ セ ト ソ ソ ツ ス ス	

遊獵
 涼谷の奥
 皇御國
 榮ゆく後代
 五月の風
 天津日嗣
 太平の曲
 御寺の鐘の音

第三十四

トリノコエ キギノハナ ノベニ 三チーテ
むしのこゑ つゆのたま の産に みちて

カス三ヶリーナ ノドカ ナル ハルノ ヒヤ
ゆくも ゆゑれず きよら なる つきの よや

第三十五

カス三ヶリーナ ノドカ ナル ハルノ ヒヤ
ゆくも ゆゑれず きよら なる つきの よや

カス三ヶリーナ ノドカ ナル ハルノ ヒヤ
ゆくも ゆゑれず きよら なる つきの よや

第三十四 春の都

一 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。
 二 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。
 三 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。

第三十五 春の都

一 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。
 二 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。
 三 春の都よ。春の花。野を遠くみちて。

第三十六

1 2
 上カのヤ シシマ タコは ツモに タの サコる 毛に ソアは ノヤを ニな一 ギじま ハユぬハ シシマ 上は 八は
 ヤヤのま ココを 毛を 毛を ハの モもた ハの ダソを ニニニ ニお 才な クリマ マキ
 リウタウ タヒツハ ゴツキーカ ハシツコ
 くは ーの ぎしつな くと ーき き つ つ こ
 コロココ ローニ ウーチツーレ ダチテ
 ころこ ーに ーあつーれ だちて

第三十六 年につけさ

一
 こゝろつけさめ。これほどをひき。
 ーやゝもひきま。なるめてなく。
 極歌うこいつ。ふつたかはーつ。
 こゝろけー。うちつぎぶらて。
 かー。そそ。あそびゆくちう。
 都も歌も。あそぶちう。

二
 のごけき春。はやちるめまきバ。
 わつたそないん。こつちうちう。
 ちく花かぎ。ちくちうちう。
 こゝろけー。ちうちうちう。
 やまぶ。あそびゆくちう。
 山道に。あそびゆくちう。

同續

3/8 ♪

コトギミ トシヨミ シタカモ モモツキ イチツキ ツキは タノのる ナイツヤ タキチヨ バラタヨ ハマタモ スサカキ 一二二 ぎれよ テハモ

アサモ キナノ カサキ 七ノミ サツクイ 今チハ クニヒタ ミナヤ ニラダチ ニ二二 ソシツ シマヤ ムムモ スシ

ズムシ マ ツムシ ハ タ オ ル ム シ サ ヘ ナ
 ら き く は な ぎ き も み ぢ ば ー の ー や く き

ガ キ ヨ ス ガ ー ラ ナ ー ク 子 ー ラ キ ケ バ
 く と キ ム ぢ ー を の ー ぢ し ー に き し て

同續き

三 六もそいつう。たうのばも過がて。

秋風さむく。身にそ一サ。

すむい松籠もなるまはさへ。

ちぎれたねはけいけい。かくねをきけば。

わきまつらおいの。わきまつらぬきたよ。

まよけ道。いそまはむ。

四 子代たうのばも月のしらぬれば。

まよけ道のうらや。るびてちんく。

ちんくまははちんかた。おまかやく。

菊ともちんかた。かぎりにけりて。

おの代いそへ。ハも代もちんかた。

この君いはへ。うらづせも。

第三十七

一カスメルソラニアメフレバ
 二ヤまのははれてつききよく
 クサキモトモニウルホヒヌ
 ちぎどのくまもあくれなし
 ワラヘルハナニホヘルヤーマ
 きらめくつーゆなくなるむーし
 タグヒナノナガメカナヤ
 たぐひなのあきのよや

第三十七 かきめらる

一 かすめるそらふあまふま

そあをときにうるほひぬ

こらへるけまふほくるやま

類たぐひものたぐひぬ

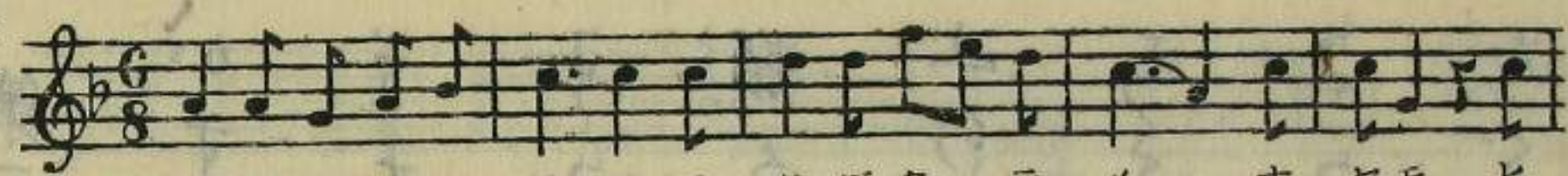
二 山の端かきもまつきはく

らまのくままかくまま

きらめくたくたくらまむ

たぐひちれ秋の葉や

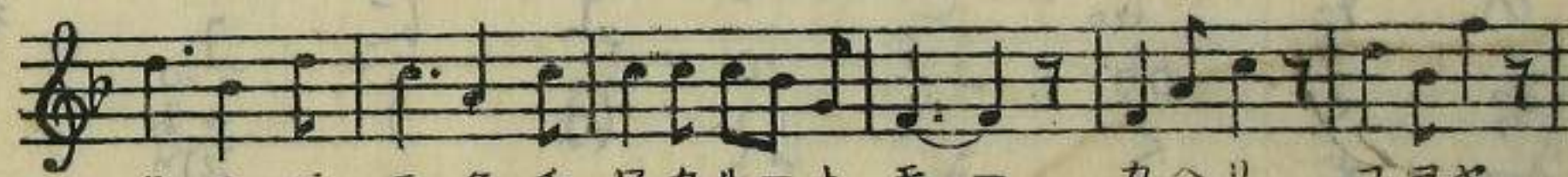
第三十八



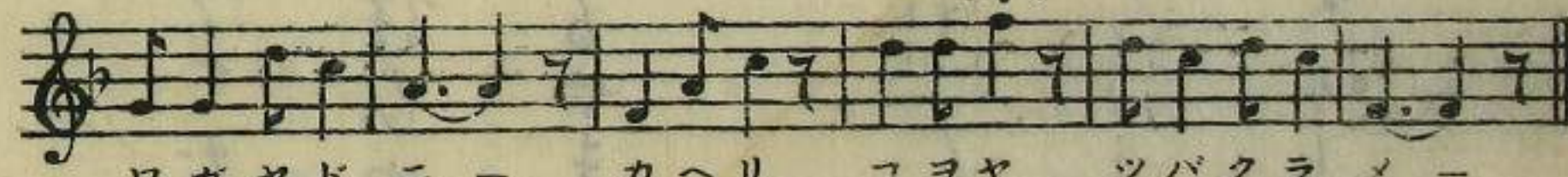
コヨヤコヨ ヤコヨ ツバクラメ オヤモヒ
きなけ きなけ やま むととーぎ すー われもひ



ナモ ヒ子モスーカ タリタノシ ミシノ スライーデ テホキ
ども よはよもーす あらい林も せずみやまをいーててみや



クニベ ニタチ ワカルトモ一 カヘリ コヨヤ
このそらになけ むととーぎス一 なのれ なのれ



ワガヤドニ一 カヘリ コヨヤ ツバクラメ一
わがやどに一 きなけ きなけ むととぎす一

第三十八 燕ツバクラ

一
 こよやく。う。はむくら先。
 おやよひちを、ひよもきかたり。
 むねみ。その巢をいで。
 とんき園いば遠とふ。あちあちのま。
 隣いり来らや。あつやがし。
 ろつりこるや。つむくらぬ。

二
 きまけく。やまほやうん。
 わきまひとを、あひよをすづ。
 いねをせず。涼山いをいで。
 都みや此そらふ。ちたふらうたす。
 なけきく。あつやがし。
 きまけく。ふらうたす。

第三十九

1カガミナー ス ミツモ ミドリノ カゲウツル ヤナギノ イトノ
 2ふるゆきー に きてその みーちも うもれけ ぽ みやまの おくの
 エダヲタレ キハレー テハ カゼ シンリウノ カーミヲ
 ゆふまぐれ あざせる あぎには あ げ もーなー き つーきを
 ケヅリ コホリ キエテハ ナミキウ タイノ ヒゲヲ アラフト カヤ
 やどしにななる しばには めーをら ざるー はなを たをると めや
 ゲニオモ シロノ ケシキヤ ナゲニ オモシ ロノケシ キヤ ナ
 げにおも しろの けしきや なげに おもし ろひけし きや な

第三十九 鏡ちす

一 かみちす。水色いづりのうげ
 うつる。柳の緑の。枝をたぎ。
 筆を研てハ。風新柳の。髪を梳り。
 水清てハ。浪舊苔の。盤を洗さるや。
 ちふおろそ。ろの。景を。やま。
 かなおひ。け。たやま。
 二 峰ら雪ふ。樵夫。いもを。
 きつり。ちやまの。おくる。夕まぐさ。
 うぢざら笠よハ。新。あき。月を。やど。
 撫へる。ほ。か。花を。た。や。
 げ。ち。ち。の。や。や。
 かなおろそ。ろの。景を。やま。

第四

イ - ハ モ ル ニ ツ モ
ア - ナ オ モ シ ロ ノ
マ - ツ フ ク カ ゼ モ
コ - ヨ セ ノ ツ キ ヤ
シ - ラ ベ ラ ソ フ ル
コ - コ ロ ニ カ カ ル
ツ - マ ゴ ト ノ 子 ヤ
ク - モ キ リ モ ナ シ

第四十 岩のり水

いはゆる水を。松の風を。

きつむをそらる。夏の言を。

あはれりるの。よの月を。

こころみよる。雲を。

第四十一

5



1 キ シノサクラノ ハナサクサカリハミヅツコニモ シ
 2 あ きのもなゐの きやけきつきよはみづのそこにモ シ
 ラクモカカレリスミダノカハノカハノセクダーシコ
 らたましづめすみだのはのはのはのせのべしこ
 グーヤラブー子ハナニウカレーテクモニサラサーシカ
 ぐーやをぶー林つきにうれーてきをのしづくのひ
 スニナガシテコグヤクモキニカスミノウミニ
 めぎもきなぐらまたましれたましれたまたーま

第四十一 岸の櫻

一 岸の櫻キも。うらむうらむくゆるくゆるもた。水みづのそよそよいそいそけけははままり。すすみみぢぢのの川がはもも。ううれれせせ〜。漕こややををここみみ。たたままししづづめめして。ここいいちちややももよよかかすすみの海うみ。二 秋あきののももれれたたささややけけはは月つきももたた。水みづももそそららににもも。白しろ玉たま〜づづめめああらら。海うみのの川がははははは津つのの原はら。ここいいちちやや小こ舟ぶねもも。ははききききふふうう〜。棹こさももたたははののままももささももらら。ささまま〜。ささまま。

第四十二

1 サナガラ ヤマモクヅルバカリニヲ
2 あしげのらまにしづらおきてあ
ノヘニトヨムヤダマノヒビキカ
ブきのまゆみてにどせしばきみ
ミテフトラモテドリニシツツイ
のまたたすはますらをなれやみ
サミニーイサームマ斯拉ヲノトモ
のまたーたせーるそ のいきましき

第四十二 遊獵

一 さねづら山くげらげらら。

をのへにさむ。矢まのひき。

ねて解きてどまら。

いさみふいさむ。答荒槍の凌。

二 葦毛の馬り。志げ鞍。

あづきの真ら。手にらまら。

みるまら。すま。まら。

矢猫。まら。まら。

第四十三

1 ミー タニノー オークー ノハ ナートリー アハレウー
 2 たー 至不のー いー 株ー のゆ ふー ぶぜー あはれよー

ヅー マークー クモノカ グハシノ ヨヤタ
 せー くー るー なみの に ぎはしの よやゆ

ノー シキ ハー ルニア フサカヤ マノイー
 たー けき あー きにあ ふさあ やまの いー

ハ子ニー ヨー せー テキ ミガヨー ウタヘ
 は不にー ぶー せー てき みあよー いはを

第四十三 みたため奥

一 みつたの おくの。花さるあたま。

うづまゝいぬ。はのいぬ。

あひまゝいぬ。あひまゝいぬ。

岩ねよよをそ。若代いぬ。

二 めもつ穂の穂ろ。ゆあ風あま。

よせくら浪の。よだりーのら。

ゆいけれた秋。あまらう山。

貴ろよせて。若代いぬ。

第四十四



1 スメラミクニノモノノウハ
2 すめらみくにのものをこゝろは

イカナルコトヲカヅトムベキテ
イたわまざをーれぬこころも

キタダニモテルマゴコロヲシ
タダニモテルマゴコロヲシ

キミトオヤトニツクスマデシ
キミトオヤトニツクスマデシ

第四十四 皇御國

一 すめらみくにのものをこゝろは

いづれも事をしむるにむすべし

いづれも身をこゝろは

君と親とふつとすまで

二 皇國をこゝろは

たわまざをきぬこゝろは

世のありはむすべし

くにや民とふつとすまで

第四十五



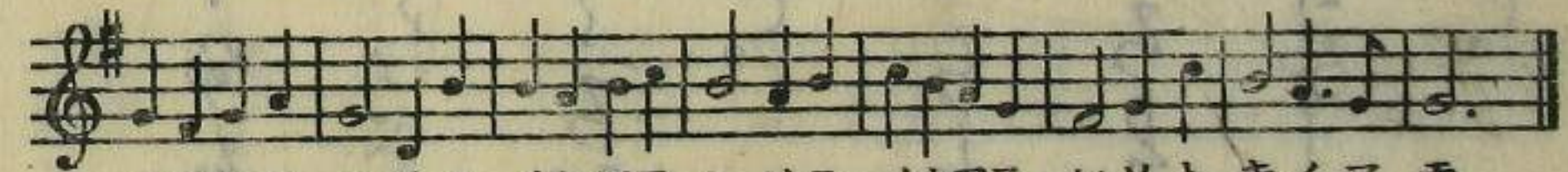
1サ カユク ミヨニ ウマレシ モーオ モヘバ カミノメ グミナ リ
2め ぐみも ふみき めみき の一み またの きあきと ぞちて



イザヤ コ ラ カミノメ グミヲユ メナワス レソユ メナワス レソユ
ちはやぶ る めのみ またにう たひまは ましう たひまは ましう



メナワス レソト キノマ モ イザヤ コ ラ カミノメ グミヲユ
たひまは ましよ もすの ら ちはやぶ る めのみ またにう



メナワス レソユ メナワス レソユ メナワス レソト キノマ モ
たひまは ましう たひまは ましう たひまは ましよ もすの ら

第四十五 業行く伝代

一

さかきいへく伝代。うまわれ。のちのちハ
神のめぐこち。いざや。神の志を。
ゆめなわすきそ。ゆえれ。すきそ。
ゆめなわすきそ。時の間。よ。や。ら。
神の志を。ゆめなわすきそ。ゆめれ。すきそ。
ゆめなわすきそ。ごちのまき。

二

恵を。涼き。かみ。た。ま。の。こ。ま。の。
さかき。い。へ。く。伝。代。う。ま。わ。れ。
神の志を。ゆめなわすきそ。ゆめれ。すきそ。
ゆめなわすきそ。ごちのまき。

第四十六

1 イ ツ カ ノ カ ゼ モ ト ラ カ ノ ア メ モ
 2 と よ あ し は ら の み づ 木 の く に は

ト キ ニ シ タ ガ フ ロ ガ キ ミ ガ ヨ ヤ ニ
 ち よ よ ろ づ よ も う ご き な き く に 一 わ

シ ノ ク ニ ヨ ー リ コ マ ク ダ ラ ヨ リ ー ヨ
 の き み の よ ー は ち よ よ ろ づ よ も ー う

リ シ ル ヒ ト ー モ ミ ー ヨ イ ハ フ ナ リ ー
 ご き な き み ー よ い ー は ち も ろ び と ー

第四十六 五日の風

一 一いつの風色。こをのりるも。

時々吹ふ。あづきらみぞ世や。

にの國より。高森百濟より。

とあくる人も。後代いともあや。

二 幽き葦原の。いづれ種のかにを。

ちとよらうづせぬ。うづれたちこそ國。

わの君の代も。くらよ海づ代也。

動きおと流代いもへりる人。

第四十七

1 ア マ ツ ヒ ツ ギ ノ ミ サ カ
2 あ し は ら の ち い ち

エ ハ ア メ ツ チ ノ ム タ キ ハ
あ き み づ の く ー ー に は ひ の

ミ ナ シ ワ ガ ヒ ノ モ ト ノ ミ ヒ カ リ
み こ の き ー み と ま す な き ど こ ろ ど

ハ ツ キ ヒ ト ト モ ニ カ カ ヤ カ シ
と ろ ー み の み よ ま せ だ ま れ ぞ

第四十七 天津日嗣

一 あままつ日流ぎの。みちのえ無。
あえつもの共。きうはく。

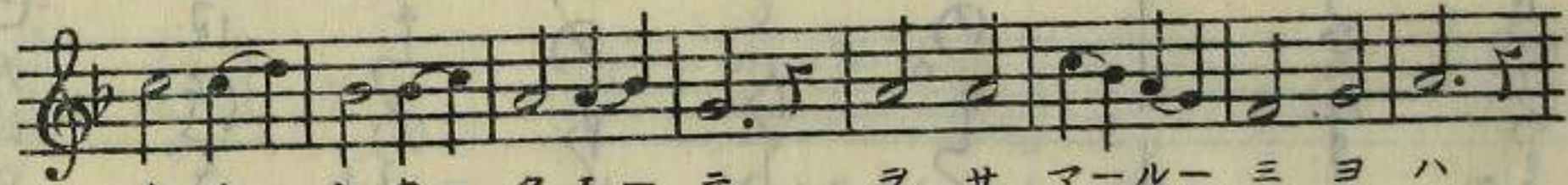
あづひのりやろ。みいりら。
月日こりふ。ぐやうん。

二 葦原の。ちいほらよ。増穂
のこり。ま。日の流子の。
さうみこもす。きこ。ららどね。
ゆのこらも。はぐまわり。

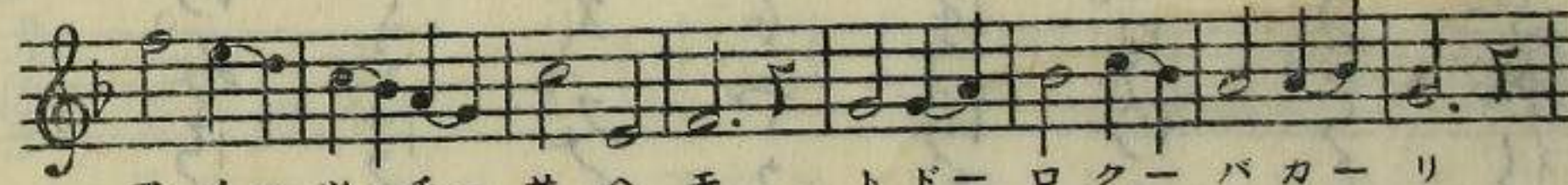
第四十八



1 ユハーズーノサワギ トブービノーケブリ
2 たひーらーのあやーこ ももーしきーのみや



イツーシカータエーテ ラサマールー三ヨハ
みあーとにーなしーて むきしーのーくにに



アメーツチーサハモ トドーロクーバカーリ
しづーまーまーましぬ としーはみーちとーせ



ヨロツーヨーマデト キミーガーヨーイハへ
よはもーもーはたち みいーをーをーあふげ

第四十八 太平の曲

一

ゆたぎのさわぎ。死ぶひのけぶり。

いっとうあえて。ささまる活世ハ。

あはれはもろさへ。ささるるるるる。

あ代まで。あ代の代いはへ。

二

あはれらのいや。百敷る宮。

あはれふれて。むさしの園。

あはれはあはれ。年ハ三千とせ。

代ハ百二十。あはれあはれ。

第四十九

1. 1 2 3 4 5 6 7 8
 二 三 四 五 六 七 八
 二 月 影 う づ ち だ。 ね け ち え じ ょ り。
 ね ち ゃ の 鐘 の み。 枕 ふ ひ ぐ ぐ。
 三 漁 中 志 め り て。 ね ち ふ こ ち。
 姑 蘇 城 外 ち ゅ ち。 鐘 う を き こ へ。

2. 1 2 3 4 5 6 7 8
 二 三 四 五 六 七 八
 二 月 影 う づ ち だ。 ね け ち え じ ょ り。
 ね ち ゃ の 鐘 の み。 枕 ふ ひ ぐ ぐ。
 三 漁 中 志 め り て。 ね ち ふ こ ち。
 姑 蘇 城 外 ち ゅ ち。 鐘 う を き こ へ。

3. 1 2 3 4 5 6 7 8
 二 三 四 五 六 七 八

第四十九 火の音

一 二 三 四 五 六 七 八
 二 月 影 う づ ち だ。 ね け ち え じ ょ り。
 ね ち ゃ の 鐘 の み。 枕 ふ ひ ぐ ぐ。

三 漁 中 志 め り て。 ね ち ふ こ ち。
 姑 蘇 城 外 ち ゅ ち。 鐘 う を き こ へ。

一 二 三 四 五 六 七 八

一 二 三 四 五 六 七 八

明治十六年三月二十八日出版届

文部省藏版口權所有

<p>一 二 三 四 五 六 七 八</p>	<p>二 三 四 五 六 七 八</p>
--	--

紅印